

市町村の森林・林業行政を支える 「地域林政アドバイザー」の取組（長野県上田市）



山々に囲まれた上田市内の様子



マツタケは市の特産品



人工林のメインはカラマツ林

平成31年度から森林経営管理制度や森林環境譲与税（仮称）の譲与がスタートすることになっているなど、森林・林業行政における市町村の役割が一層重要になっています。

このような中、市町村が、森林・林業に関して知識や経験を有する方を雇用すること等を通じて、市町村の森林・林業行政の体制支援を図る「地域林政アドバイザー制度」が平成29年度からスタートしました。

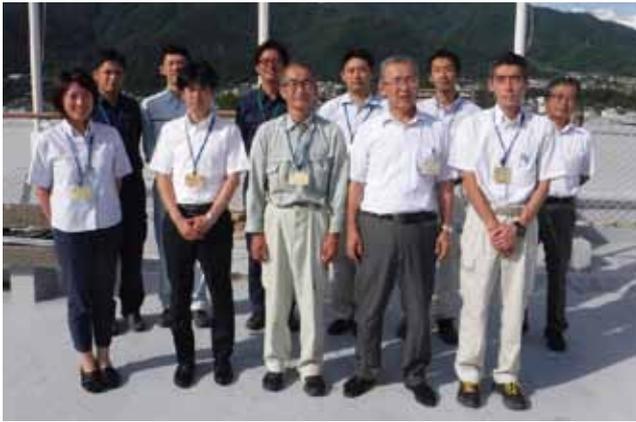
今回は、この制度を活用して体制の充実や職員のレベルアップに取り組んでいる、長野県上田市の事例をご紹介します。

1 上田市の森林・林業行政の現況

上田市は長野県の東部に位置し、北は上信越高原国立公園の菅平高原、南は八ヶ岳中信高原国立公園に指定されている美ヶ原高原などの2,000メートル級の山々に囲まれています。市の面積の約70%が森林であり、そのうち51%を占める人工林



森林調査（写真左）や測量（写真右）の実施時にアドバイザーが指導・助言



上田市の林務担当職員の方々（前列中央が田中アドバイザー）



森林教室では講師も担当

は、カラマツやアカマツが主体となっていて、ます。

上田市では森林・林業行政を担当する課として森林整備課が設置されており、嘱託職員等を含め約10名の体制となっており、林業専門の職員の採用は行っていません。ことから、一般行政職の職員が林業振興や森林整備等の実務を担っています。このため、3〜4年のサイクルで担当者が他部署へ異動することになり、実務のノウハウの蓄積や、職員の技術・知識の習熟が難しい状況にありました。

他方で、国において、平成28年末の与党税制改正大綱の中で、森林環境税(仮称)の創設に向けて市町村が主体となった新たな森林管理の仕組みを導入する方向性が示されました。

「これは林務行政の大きな変革期となる。現体制で対応できるのか？」

上田市では、そうした危機感が強くなる中、新たな仕組みへの対応に向けた準備を進める観点から、地域林政アドバイザー制度を活用することを決めました。

2 地域林政アドバイザー制度の活用

上田市の地域林政アドバイザーを担う田中さんは、長野県の林務部局職員のOBで、通算40年以上にわたり林務行政に従事した、豊富な知識・経験を持たれています。

このため、アドバイザーとしての活動分野も、市有林の整備に必要な森林調査や測量といった業務、松くい虫対策、治山・林道施設の維持管理、森林環境教育など、多岐にわたります。

田中アドバイザーは、「自分の持っている知識や技術を様々な機会に職員に伝えることができるように努め、特に現場に出る機会には何気なく森林や林業に関する話をするよう、心がけています」とおっしゃいます。そうした活動を1年以上続ける中で、職員からも、「制度や事業の詳細な部分まで精通されているので、的確な助言をいただけて、安心して事業を進めることができます」といった信頼の声が寄せられています。

3 今後に向けて

上田市では、地域林政アドバイザー制度の活用は、体制の充実や林務担当職員のレベルアップにつながるのはもちろんのこと、それを通じた市民サービスの向上や、健全な森林育成など、様々な派生効果が生まれると感じています。今後もこの制度の活用を通じて、林業の振興や森林の多面的機能の発揮に貢献できるよう、取り組んでいくこととしています。